

審議会等会議録

審議会等の名称	平成28年度第2回山口市立図書館協議会
開催日時	平成28年10月28日（金曜日）15:00～16:40
開催場所	山口情報芸術センター 多目的室
公開・部分公開の区分	公開箇所
出席者	安光会長、糸長委員、大野委員、岡田委員、重枝委員、藤川委員、田坂委員、原田委員、田澤委員
欠席者	吉村副会長、児玉委員、中村委員
事務局	中央図書館長、小郡図書館長、秋穂図書館長、阿知須図書館長、徳地図書館長、阿東図書館長、中央図書館管理担当主幹、中央図書館サービス担当主幹
議題	1 報告事項 (1) 図書館に関する市民意識アンケートの集計結果について (2) 夏季時間延長（夕涼みプラス2）の実施結果について (3) その他
内容	<p>○事務局</p> <p>ただいまより平成28年度第2回の山口市立図書館協議会を開催いたします。最初に、中央図書館館長より御挨拶いたします。</p> <p>○事務局（中央図書館長）</p> <p>一言御挨拶をさせていただきます。図書館協議会の委員の皆様におかれましては、平素、いろいろな形で、本市図書館サービスをご支援いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>本日の議題は、7、8月に市民に対して行った「図書館に関する市民意識アンケートの集計結果」の報告を中心に行ってまいります。</p> <p>現在の第2次山口市図書館サービス計画も、最終年の平成29年度が来年に近づいてまいりましたので、次期サービス計画策定の参考とするために、この7、8月に、市民約2,000人に対してアンケート調査を行いました。</p> <p>お手元の資料に、現在の本市図書館サービス計画の体系図を添付いたしておりますが、めざす図書館の姿として、日本一本を読むまちをめざして、「どんな時も身近に役立ち出会いを大切にする図書館」となるべく、体系図のような、いろいろな取り組みを行ってまいりましたが、その市民評価の一端が、図書館に関する市民意識アンケートの分析でわかってくると思っております。</p> <p>本日は、アンケート結果に関する、委員の皆様からの御意見をいただき、次期サービス計画策定の骨子等を作っていき参考とさせていただければと考えております。</p> <p>それでは、図書館についての日頃のお気づきの点等も含めて、しっかりと委員の皆さんと意見交換を行いまして、市民の図書館となるべく、6館で連携して、より良い図書館サービスが展開できるように努めてまいりますので、本日も忌憚のない御意見</p>

をいただきますように、よろしくお願いいたします。

○事務局

それでは、進行について会長にお願いいたします。

○会長

皆様、こんにちは。それでは、本日は、報告事項が2件ということでございます。図書館に関する市民意識アンケートの集計結果と、夏季時間延長（夕涼みプラス2）の実施結果についてでございます。

両方とも結果報告になりますので、それに対する御意見、それから他の事でも結構ですので、しっかりと皆さんから忌憚のない御意見を出していただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、1の報告事項ということで、これは山口市民2,000人を対象としたアンケートということですが、「図書館に関する市民意識アンケート」の集計結果と、それと少し関係する点もありますので、山口市立中央図書館で実施された、夏季時間延長（夕涼みプラス2）の実施結果を合わせて御報告をお願いします。

○事務局

それでは、「図書館に関する市民意識アンケート」の集計結果について御報告いたします。

このアンケートは、平成30年度からの第三次山口市立図書館サービス計画の策定に当たり、基礎資料として参考にするために行ったものです。

ちなみに、平成29年度までの現行計画の体系図について、別紙で資料をつけていますが、今回のアンケートを参考にして、次期計画の体系を今後、策定していくことになります。

それでは、調査の概要ですが、アンケート調査の対象は、市内在住の18歳以上の市民を無作為抽出で行っており、配布と回収は郵送で行っています。調査期間は、本年の7月下旬から8月末まででした。

回収結果ですが、総配布数が2,024、未達等が18、有効回収数が632、回収率としては31.5%でした。

この回答者の属性等についてですが、まず男女別で見ますと、回答者の性別は、女性が約6割と男性より少し多くなっています。

次に、年齢別で見ますと、若い層が比較的少なく、市民の年齢構成と比べると、高齢層の回答者の割合が、若干高くなっています。

また、職業別の属性では、会社員や自営等、パート等、職を持った方が56.8%と6割強であり、つまり4割強の方は、職業を持っていない方による回答となっています。

それから、回答者を地域別に見ると、大内や小郡など人口の多い地区の居住者の回答が多く、これは当然なのですが、概ね地区別の人口比に近い割合の回答者数となっております。

それでは、調査結果について御報告いたします。

まず、最初の問いが、あなたが過去1年の間に、最もよく利用した市立図書館はどれですかという設問でございます。

これについては、最も多い回答が、過去1年の間にどれも利用したことがないということで、47.9%と5割弱になっております。その次に、中央図書館、小郡図書館というように規模が大きいところが多くなっています。

この回答で、半分近い方が、どれも利用したことがないと回答され、少し意外な感じもしたのですが、市民の登録率を見ますと、44.7%ということであり、登録率を考えた場合、考えられる結果だと思っております。

ここで、どれも利用したことがない、という人の割合が高いことから、利用したことがない人の場合と、どれかの図書館を利用したことがある人について、回答者の属性ごとにクロス分析を行っています。

まず、男女別で見ますと、女性のほうが少し利用したことがあるという人が多い結果になっております。男性のほうが利用したことがないという方が、少し多くなっています。

それから、年齢別に見ますと、年代が高くなるほど、過去1年間に利用していないという方が多くなる傾向が見られます。若い人のほうが、利用したことがあるという回答が多くなっています。

それから、職業別に見てみますと、自営業等の方や無職の人で利用したことがない、過去1年間に利用していないという割合が高くなっております。

それから、居住地別に見てみますと、中央図書館のある白石地区や、学生の多い平川地区、それから小郡図書館のある小郡地区では、いずれかを利用したという割合が高くなっておりまして、旧山口市南部地区の陶、鑄銭司、名田島、秋徳二島などでは、利用したことがあるという割合が低くなっており、利用したことがないという方の割合が高くなっています。図書館の位置的な問題も関係してきているのかもしれないと思います。

その次の設問が、どれも利用したことがないとお答えの方に、市立図書館を利用されなかった理由について、聞いています。

まず、最も利用しなかった理由として多かったのが、本や雑誌は購入する、という理由が多くありました。その次が、必要な情報は新聞やテレビ・ラジオ・インターネットで入手する。その次が、行く時間がない。その次が、図書館を使う必要性を感じない、という順で、行かなかった理由が多くなっています。

その次の設問が、いずれかの図書館を利用された方に、どのぐらいの割合で、どれぐらいの頻度で利用されたか、ということ聞いています。

最も多いのが、年に1回から数回程度の利用者で、これが45.5%と5割弱に上ります。毎週のように利用する人は5.6%であり、利用頻度の高い人は、ある程度限られているということが言えるかと思っております。

次の設問が、いずれかの図書館を利用された方に聞いております。その図書館をどんな目的で利用されましたかということで、複数回答で聞いております。

最も多いのは、資料の貸出及び返却であり、次に、館内での読書が多くなっています。その次に、自習等で使うという人と、調べ物で使うという人が同数で並んでおり、行事の参加、がそれに続いています。ネット利用やA V視聴は、割に少なくなっています。

その次の設問が、いずれかの図書館を利用された方にお聞きします、ということで、その図書館の下記の点について、あなたの「満足度」をお聞かせくださいということで、ある項目についての満足度を聞いております。

ここでは、それぞれの項目について、中央図書館、小郡図書館、それからその他の地域館として、秋穂、阿知須、徳地、阿東図書館は一つのくりにしています。

それから移動図書館と地域交流センターへの配本の回答数も一つのくりにして、4つのくりでそれぞれ集計を出しています。

まず、開館時間についての満足度では、概ね満足度は高いのですが、開館時間が短い他地域館で、やや不満のある人が、ほかに比べて多くなっています。

その次に、開館日数についてですが、これも概ね満足度が高いのですが、満足な人の割合は、祝日開館をしている中央図書館で特に多くなっており、利用できる日が少ない移動図書館や配本では、満足度が少し低くなっています。

その次に、蔵書構成で、本や雑誌、新聞などの種類や量、について聞いています。

これについても、満足度はある程度高いといえるかと思いますが、規模の小さな他地域館では、ほかに比べて不満足な割合が少し高くなっています。

その次に、わかりやすい本の配列や企画展示など、本を手に取りたくなる工夫について、満足度を聞いております。

いずれの館も普通という答えが最も多いのですが、移動図書館や配本では、満足な人の割合が低くなっております。これは、その移動図書館、配本の性質からいって、ある程度やむを得ないということが言えるかと思えます。

次に、レファレンスサービスについて、満足度を聞いております。

ここで特徴的なのは、いずれの館についても、満足度についてわからないという回答者数が多くなっています。レファレンスサービスというもの自体がよくわからないということなのかなということが、一つの解釈としてできるかと思えます。

それから次に、図書館の施設や設備についてですが、これについては、満足度はかなり高いのですが、特に中央図書館で満足の割合が最も高くなっております。

それから、講演会や講座、おはなし会、上映会などの行事やイベントについての満足度ですけれども、これについては、レファレンス以上に満足度についてわからないという回答が多くなっています。これは、講演会や講座、おはなし会、上映会などをやっているということ自体が、よく知られていないのかもしれないということが言えるかと考えております。

次に、職員の対応です。これについては満足度がかなり高くなっており、どの館も比較的満足な人が多くなっているのですが、地域館で、やや不満な人の割合が、少しですが高くなっています。

次の設問ですが、あなたが、今後図書館がコストをかけて重点的に進めるべきと考える機能・サービスは何ですかということで、複数回答で聞いております。これは、全員に聞いた設問です。

最も多かった回答が、大人がゆったりと余暇を有意義に過ごすための空間や環境の提供をすべき、という回答が最も多くなっております。その次に多いのが、子供のための環境提供が多くなっております。3番目が蔵書の充実、その次に多いのが自習環境の提供、その次が時間延長となっております。ほかに100以上の回答があったものとしては、大人向け行事の充実が115ほど、上がっております。

この設問についても全員に聞いていますので、利用したことがない人と利用した人で答えの傾向が違うのかという点から、それごとにクロス集計を行っています。

まず、利用したことがある人については、やはり大人のための環境提供が最も多く、その次に蔵書充実、自習環境の提供、子どものための環境提供と時間延長、大人向け行事充実、の順で回答が多くなっております。

利用したことがないという方については、1番は、やはり大人のための環境提供ということになっており、次に子どものための環境提供、その次が、3番目が特になし、その次が自習環境の提供、大人向け行事の充実、時間延長の順になっています。

利用がある人と利用していない人で傾向が大きく違ったのが、蔵書の充実に関する点と、特になしという点については、傾向が大きく違いましたが、その他については、ほぼ同じような傾向になっております。

それから次の設問ですが、これも全員に聞いております。今後、図書館が充実すべきと考える資料はどれですかということで、複数回答で聞いています。

最も多かったのが、一般書の趣味や教養書などです。その次が、一般書の中でも仕事や社会生活上の課題解決に役立つ実用書、3番目に小説など、ということで回答が多くなっております。その次が、絵本、児童書、AV資料、の順となっております。

ここでも利用している人と利用していない人で傾向が違うかということで、クロス集計をしております。

まず、利用がある人については、やはり趣味・教養書が最も多くなっており、次に小説など、実用書、児童書、絵本、雑誌、AV資料の順になっています。

利用がない人については、1番が、趣味・教養書、次が実用書、小説など、その次に地域資料が上がっています。その次が絵本、AV資料、大活字本等の順になっています。

利用がある人とない人で少し違う点としては、利用がある人については、少し柔らか目の資料の希望が多いようですが、利用がない人については、地域資料など、固め目の資料についても希望があるという結果が出ているかと思えます。

以上が、「図書館に関する市民意識アンケート」の集計結果に関する報告でございます。

続きまして、夏季時間延長の実施計画について、御報告いたします。

中央図書館では、平成26年度、27年度、それから28年度と、夕涼みプラス2

という愛称で、7、8月の土日祝日、閉館時間を2時間繰り下げる試みを行いました。時間延長をしたわけでございます。

平成26年度、27年度の利用状況を見ますと、時間延長の効果に明確な結果がちょっと見出せなかったため、28年度も行ったところでございます。

28年度は、新しいニーズの掘り起こしをするため、二、三十代の男性と、部活や習い事に日中忙しい子どもの家庭を対象に、市内小中高校へのチラシ配布やラジオ、ケーブルテレビ、ミニコミ紙などでの広報を行い、周知に努めたところでございます。

また、28年度につきましては、2時間の時間延長をしたのですが、その2時間の入場者数が、1日全体の10%を超えることを一つの目標として実施いたしております。

ちなみに、この延長時間帯の入館者数の計数につきましては、中央図書館友の会のトネリコの皆さんの御協力をいただいて計数をしております。

結果としては、平成28年度延長時間帯の入館者数が、1日平均165人、これは、1日当たり全入館者数の7.3%ということになりました。

ちなみに、平成27年度は、1日平均137人で、これも1日当たり入館者数の7.3%ということで、10%という目標を超えることはできませんでした。

今後は、今年度実施した市民アンケートの結果も踏まえて、図書館活動推進事業などでのイベント等、ほかの事業も勘案しながら、限りある予算を配分し、利用者増につながる図書館サービスの充実について、検討していきたいと考えております。

○会長

ありがとうございました。夕涼みプラス2の実施結果で、不思議なのは7.3%という数値が余りにぴったりであり、方々に周知徹底を努められた結果、1日の平均の入館者数が増えても、同じ結果であったということではないかと思っております。

また、図書館に関する市民意識アンケートについては、私としては、これをやった意味は、利用していない方がどの位の割合いらして、どういう理由があるのか、どのあたりの層の方が利用されていないのかを知りたかったということだと思っておりますが、ほかの点でも結構でございます。この二つの報告につきまして、何か質問とか御意見があれば、お願いいたします。

○委員

アンケートの配布と回答について、地域別配布数と回答者数に関連があったのでしょうか。

○会長

中央図書館がアンケートをする時に、その地域を考えてとか、何か基準があるのかということですか。

○事務局

アンケートは、地区ごとに人口比に合うように抽出して発送しております。年齢等についての配慮はいたしておりません。ですから、人口の多いところについては、発送数も多いですし、少ないところについては、発送数も少ないです。

小郡地区につきましては、配布した数が多いから返ってきた数も多いということが言えると思います。

○会長

今の回答でよろしいですか。

○委員

わかりました。次の質問ですが、アンケートの自由記入欄の内容について、なんらかの傾向があれば教えてください。

○会長

それで自由記載があったのでしょうか。

○事務局

自由記入欄は一番最後にございました。市立図書館について御自由に御意見をお書き下さい、ということで、非常に多数の御記入をいただいております。

なかなかまとめるのは難しいですが、比較的、印象として多かった回答としては、駐車場の問題で車がなかなかとめられないという問題。それから、カフェスペースが欲しいというような回答が、多かった印象がございます。自由記入でございまして、なかなか数字的に何%という形で出すことが難しいのですが、印象といたしましては、以上でございます。

○会長

自由記載の部分は、入力を業者に出されているのですよね。

○事務局

そうです。

○会長

例えば、何かこう見出しをつけて、駐車場問題とか、蔵書に関する等、とつけて、整理をされる必要があるのかなと思っています。ということでよろしいでしょうか。

○委員

はい。600件の半分以上あったとしても、全てこれを出していくことは大変だろうとは思いますが、少数意見であっても、取り上げるべきものがあるのではないのでしょうか。

○会長

引き続き質問をお願いします。

○委員

私は、このアンケートの結果を見まして、やはり大人向けの空間環境の提供とか、それから大人向けの講座、講演会の企画行事といったようなことも出ておりまして、この内容というのは、いつ公表されますか。

○会長

公表についてお願いします。

○事務局

11月の教育委員会定例会の報告事項として提出する予定としています。

教育委員会定例会終了後は図書館のホームページ上で公開いたします。

○委員

わかりました。

○会長

先程の、図書館を利用したことの人の自由記載というのは、大事かもしれないと思います。私は、絶えず不満とか、何か欠けているところはないだろうかという見方をしているので、図書館としても満足に満足するのではなくて、不満という所に視点を置かなくてはいけないと思います。

図書館を利用していないという人がいれば、その方の自由記載はわかりますね。

利用していない人の自由記載では、もしかしたら、ここでは出てきていないものが出てくるのかなと思ったりもしています。

次に、他の委員の方、いかがでしょうか。

○委員

利用したことがない、とアンケートに答えた人についてですが、利用しなかった理由で、例えば、場所を知らないとか、遠い、交通が不便ということは、確かに特に高齢者になると、図書館まで遠い上に、行くことの必要性を感じないということでしょうね。行く時間がないということは、仕事の時間帯とか、自分の都合と合っていないということでしょう。必要性を感じないというのも、図書館に足を踏み入れていなくて、今まで利用したことがない人であると、そんな感じではないのかなと思います。その辺は、私たちの友の会でも、いろいろな利用の仕方があるということを、本を別に借りなくても大人の居場所としての場でもあるよ、ということを皆さんに浸透していけばいいのかなと思っています。

特に足をとられてしまうような高齢になった場合には、重たい本を自転車に乗せて帰るとするのは少しどうかという方もだんだん増えてくると思うので、周辺の地域館では、この辺をどうするのか。そうすると、子連れの若い人が中心になって、高齢者の範囲というのは少し狭くなっていくのかなと思っています。地域によって特徴があるので、一概には言えないとも思います。

それと、無作為抽出だったということは、住民基本台帳か何かで、頼まれて拾われたのですよね。

○事務局

そうです。

○委員

はい、わかりました。

○会長

ほかに何かありませんか。

○委員

今、どれも利用したことがないと答える方についてですが、その他が35あります、どんな内容がありましたか。私は関心が沸きました。

それから、私の場合は、図書館まで車で走って10分もかかるのです。やはり遠いというのは、かなり利用には影響があると思います。

その他でどんなものがあるのか、お聞きしたいと思います。

○事務局

その他の内容ですが、例えば、子育てで忙しいとか、介護で忙しいとか、足が悪くなって行けなくなったとか、そういった個別の御事情を書かれている例が多くありました。

○会長

次の委員の方どうぞ。

○委員

アンケートの回収率ですが、こんなに簡単なというか、わかりやすいアンケートなのに、少し悪いように思うのですが、実施された方では、この31.5%というのは、予想どおりですか。それとも悪いなと思われているのですか。

○事務局

予想では、5割を期待していました。通常、市のこのようなアンケートは、大体3割から4割位という例が多いようです。3割というのは、考えられなくはないのですが、少し残念な結果だと考えております。

○委員

そうですね。図書館がこういうアンケートをするのは初めてだし、私は、アンケートが来たとしたら絶対にすぐに回答しようと思っておりますので、すぐ回収率が悪いなと思いました。それで、この回収率というのは、有効なのですか。

○事務局

山口市の人口からいって、サンプル数としては有効になります。

○会長

次の委員からどうぞ。

○委員

回収については、郵送でないといけなかったのでしょうか。例えば、図書館に持ってくるとかです。

○事務局

郵送で返していただくことを基本としておりましたが、数は少ないですが実際にカウンターへお持ちになった方もいらっしゃいます。

○会長

アンケートは難しいですね。はい、どうぞ。

○委員

今回、今のアンケートの回収のところもそうなのですが、やはり場所を知らないとか交通の便が悪いとかということにしているのは、本の貸し借りをする場合もそうなのだと思うのです。私は、ブックスタートボランティアをやっている時にも思うのですが、高齢者に限らず、借りたのはいいけど、返しに来るのはいつも遅れ気味であっ

たり、なかなか足が図書館に向かないという人に、地域交流センターでも返せますよ、とよく御案内しています。配本等、そういうサービスについてももう少し周知するような工夫があると、利用も広がっていくのではと常々思っております。

せっかくアンケートをとられてご不便されているということがわかったり、なかなか興味が向かないこともあるとわかったので、何か今後利用していただくような工夫をしていったらいいのではと思いました。

○会長

次の委員の方どうぞ。

○委員

私も、とても回収率が悪いなと思いました。その他は余り気がつきませんでした。

○会長

次の委員の方どうぞ。

○委員

今ごろは、ポイントがつかないとしないのでしょうかね。私にも、この報告は出さなければいけないというのがきますが、返送しなければならないというものは、それはポイントがついているんですよ。

例えば、扶養者はいますか、というようなものは、必ずそういうものは出さなければいけないと思います。しかし、その他のアンケートは、活字離れではないですが、もう読むこと自体が大変、という人がいるのではないのでしょうか。

新聞も読まない、とにかく読むことに興味がない人も結構いるのではないのでしょうか。かなり能力的に高い人でも、何々以外に興味がないという方が私の身近にもたくさんいらっしゃいます。

そういう人は、3枚か5枚のアンケートを読むこと自体が大変で、封筒を開けたとしても、もうそのままにしている。アンケートをすれば、必ず報告する方が多いかもしれませんが、役所から来たような文書なんて、全然興味ないというマイノリティも結構いると思います。

○会長

そうですね。この3割程来ている人というのは、まだよく利用しないのに書かれたなと思います。しかも何を期待するとかですね。つまり7割の人がもしかしたら利用について、全く興味がないという人かもしれませんね。

○委員

それは、ティッシュペーパー1箱渡すとしたら、10%はすぐ上がると思います。

○委員

でも、逆に何もなくても書いて出された人は、きちんと考えて出されたと思います。

○委員

そういうことですね。

○会長

これは、ありがたいですね。だから、利用していない方も、自由記載なんかも徹底

的に見て、1人でもどのように思っているのかというところが大事かと思えます。この632人の方には感謝することですね。

○委員

それはそうですね。よく書いていただいたということじゃないでしょうか。

○会長

しっかりと使っていただきたいなと思います。

○委員

それと、回答しなかった1,392名は、どこの人なのかという質問です。

どこの地域に住んでいる人かで、年齢はどれぐらいだったか、そのあたりも知りたいと思います。

○会長

説明で、年齢は考えていなくて、地域だけしか考えていないとありましたよね。

○事務局

そのとおりです。

○会長

だから、年齢の割合というのは、わかりませんね。地域に関しては、最初説明で、大体人口比と同じぐらい回答もしたし、回収もそういう感じになっているとありましたので、大体どこも同じような感じで回答をしたということですね。

○事務局

そうです。

○会長

私から一つ質問ですが、開館時間というのは、何を指しているのでしょうか。開館時間では、延長を望んでいらっしゃるのでしょうか。私が、利用者アンケート等を行った調査では、10時開館を早く開けてくれ、という方が多かったのでそれについてはどう出ていますか。

○事務局

開館時間は、開いている時間ですが、自由回答の中には、早くあけて欲しいという意見もありました。それから、夜を延ばして欲しいという意見もありました。

○会長

開館時間は、午前10時ということで、配本作業等、開館を準備する時間があるのでそれを早めるのは無理だと言われ続けておりました。県立図書館は、9時開館だということなので、その辺の御不満があるのではないかと思ったものですから。どうして10時ということになっているのでしょうか。

○事務局

10時までの図書館職員の作業としまして、図書館のホームページ上で、予約がかかった多くの図書資料の確保や、返却ポストに帰ってきた大量の図書の返却処理及びそれらの図書の書架への排架作業を職員総出で行っております。

また、中央図書館でしたら、休館日明けの水曜日は、特に大変な作業になります。

休館日明けは、返却トラックにぎっしり本を載せても、6、7台になる位の大量の返却本がございますので、それらの図書の返却処理をし、図書館の書棚へ排架してまいります。職員総出で利用者が本を探し易いように、図書館の書架の定められた分類場所にきちっと排架する作業等を行い、皆で一生懸命に取り組んで、やっとぎりぎり10時に間に合わせている現状でございます。

○会長

わかりました。加えて、他のことで事務局から発言がございますか。

○事務局

欠席された委員から、気づきを出していただいております御紹介したいと思いで、よろしいでしょうか。

○会長

はい、それではお願いします。

○事務局

委員の気づきですが、回収率の点で、68.5%の回答が回収されなかったということは、図書館に関心のない人がたくさんいらっしゃるということなのかと思われました。

あなたが、最もよく利用した市立図書館はどれですかという回答の中の、どれも利用したことがないが47.9%であるのと合わせて考えると、利用したことの無い方に図書館を知ってもらうことが一番の課題かと思えます。

それから、市立図書館を利用されなかった理由について、を見ると、ほかの図書館もあまり利用されているわけではないようです。図書館は、単に読みたい本を借りに行くところではなく、いろいろなサービスを行っているのだという図書館自体のPRが必要かと思えます。

それから、いずれかの図書館を利用された方が、どんな目的で利用されたかという設問を見ると、行事、イベントに参加するの回答が29件あります。一定数あっており、歴史講座等好評だったと聞いておりますが、講座への参加と図書館利用が結びついていないのでしょうか、という気づきをいただいております。

以上でございます。

○会長

最後の、結びついていないのではということについて、事務局から何かありますか。

○事務局

今の図書館活動推進事業についてですが、この事業を昨年度から立ち上げており、いろいろと行時等を行う中で、の評価を行うことがございます。

現在、全国の傾向は、皆さん御存じのように、2011年をピークに、個人貸出数がどんどん減ってきている現状がございます。これは、日本の図書館という統計書によるものですが、その全国的に減少している傾向の中で、本市でも近年若干減少してきましたが、本市における昨年度27年度の貸出点数を見ますと、前年度と比べて一転して増加している実績が出ておりますので、図書館活用推進事業の各イベント

が、市民の図書館を利用するきっかけづくりになってきている、市民の図書館利用に結びついているという評価をしております。

県内の取組みとして、明治維新150年関連企画として、本市の地域資料等、山口市にゆかりのある関連本なんかを、読んでもらうきっかけづくりを目指しており、図書館を日頃利用されない市民にも利用していただけたらと思っています。

○会長

委員の方、どうぞ。

○委員

私は、歴史講座に参加したことがないのですが、会場が図書館の外ではないですか。前は、県立図書館でも開催されていましたが、その時に、例えば関連本の展示とかされているのでしょうか。

○事務局

必ず関連本のコーナーを作っていましたし、会場の入口では、新規利用者登録コーナーをつくって、利用カードの登録をしてくださった方には、トートバッグをあげますよとか、いろんなことをやって新規利用者の開拓に取り組んでおります。

○委員

わかりました。ありがとうございます。

○会長

何かほかに質問はありますか。現行の図書館サービス計画の体系図の説明とこれを結びつけるところでは、何かありますか。

○事務局

現行計画の体系図をお示ししたのは、今度、新しいサービス計画についても、こういった体系図を作成するようになるので、それを作る時に、こういった点に気をつければいいのかと、というような御意見を、もしいただければと思います、参考までにつけたものでございます。

○会長

なかなかレファレンスというものが知られていなくて、身近に役立つ、というところで、その機能を強化するという部分ですが、やっぱりそれだけ強化しても、知られていなければ何も活用がないというところですね。

それでは、これから先は、御自由にPRなり何でも結構でございます。議題としては、その他ということですので、どうぞ、日頃から思っている部分や御意見をお聞かせいただければと思います。

○委員

山口市の市民を対象にした市立図書館ですけど、昔からある県立図書館と、どれだけ利用度が多いのかということ、少し知りたいですね。県立図書館にどれくらい流れているのかというのを聞きたいんですけど。

○会長

本市の市立図書館ができてからとできる前と、県立図書館も少し変わってきたの

かどうか、今の時点で何かわかればお願いします。もしすぐに御回答ができなければ、次回でもいいですか。

○委員

そうですね。

○会長

それでは、質問された委員に直接御報告をいただき、また、次会の際にでも、私たちに説明していただければと思います。

○事務局

わかりました。現在の市立図書館と県立図書館の関係を少しお話いたしますと、いつも県立図書館には研修等で御指導をいただいております。図書館の設置及び運営上の望ましい基準では、県立図書館から市立図書館を支援していただくようになっておりますが、例えば館内での写真撮影とか、図書館運営について判断に迷った場合には、県立図書館に相談にのっていただいております。

また、図書館資料につきましては、市立図書館では身近に役立つ図書館を目指しておりますので、一般的な本で市民に身近に役立つ本をそろえており、県立図書館は、ある程度の専門的な本が多いのかなと思っております。

○委員

県立図書館の利用者を、市立図書館に取り込むような取組みが必要ではないでしょうか。

○会長

どうぞ。

○委員

市立図書館と県立図書館は、機能や蔵書構成が違うので、利用者の方が使い分けされるということではないでしょうか。

○委員

難しい。よくわかりました。

○会長

ほかに何か。何でも結構です。

○委員

この間から、地震が多いですが、山口県は関係ないと思ったら、震度1の数字が出ておりました。

あのときに、テレビを見ていて思ったのですが、地震はもう全国レベルですね。阿知須図書館と秋穂図書館は、まさに阿東図書館とは、海との距離が違いますが、特に子どもたちは今から何十年と生きていかなければならないので、地震とは出会う可能性が高いので、東京防災の黄色い本を大量に購入し、図書館に備えると、図書館を利用するきっかけになるのではないかという気がいたしました。地震は他人事ではないという気がいたしましたから、それにひっかけていくのも人を集める一つの方法だと思いました。

○会長

いろいろな話のうちに、何かアイデアが出てくるのかと思います。次の委員の方どうぞ。

○委員

地震の話が出たので、地震があったときに、図書館において、利用者さんの緊急地震速報があちこちから鳴って、書架がギンギンという、少し怖い思いをしたんですけど、図書館でどういうそういう耐震化の取り組みとか、どういう感じでされているのでしょうか。

○会長

それでは、新しい図書館、少し古い図書館で、それぞれ建物によって差はあるかと思いますが、わかる範囲内でこれも耐震の問題についてはどうでしょうか。中央図書館からお願いします。

○事務局（中央図書館長）

中央図書館は、開館13年目の新しい設計の図書館なので、構造上の耐震化は万全であり、書架等も床等ときちっと結合され、倒れないようになっております。

また、年に一度は避難訓練を実施しており、中央公園に避難していただくような場合が多く想定されますが、もちろん、状況によりケース・バイ・ケースの避難誘導になってまいります。

○会長

次に小郡図書館からお願いします。

○事務局（小郡図書館長）

小郡図書館は、開館して8年であり、設計基準は大丈夫です。書架も倒れてこないよう耐震化になっております。このたびの地震の震度は3だったのですが、それでも随分大きく揺れました。それで職員が、すぐに書架の間に入っておられる方に対して声かけをいたしました。人によっては、また場所によっては、揺れが感じなかったという人もいらっしゃいましたが、そういう発生時の対応を行っております。

また、先日、中央図書館長が各館を回り、防災の関係での確認がありましたが、仮にその朝、あるいは夜中、閉館時期に地震でもう壊滅状態になったときに、どうするかという一応の想定をいたしました。

小郡図書館の近くに、教育委員会関係で連携できる地域交流センターがありますので、そこに鍵を一つ預けておくことにいたしました。地震発生時に、職員が歩いて集まることを想定しても、私は、宮野から来ますから、なかなかすぐには行けないので、そういったことも地域交流センターと含めて連携しながら、正規職員、嘱託職員、臨時職員という段階があるのですが、鍵を持つ人もおりますので、意識して自分の家から出られなくなることがないように、気をつけようよと、そしてちゃんと来て点検できるようにしようよということも、今意識づけをしているところです。

○会長

それでは、阿東図書館からお願いします。

○事務局（阿東図書館長）

阿東図書館は、4年前に移転開館している新しい建物ですので、耐震については、平屋でもあり、大丈夫でございます。

また、書籍棚の転倒防止についても、その辺の対策は十分になされております。

○会長

それでは、徳地図書館からお願いします。

○事務局（徳地図書館長）

徳地図書館は平成7年に建っており、今年で21年目になります。建築的には、旧耐震基準であり、阪神・淡路大震災の後に新しい耐震基準ができており、その前に設計されておりますので、耐震そのものはありますが、新しい基準ではないと思います。

開架書架については、転倒防止を考えて固定しており、利用者の安全に配慮しております。

また、閉架書庫が2階にあり、そこに通常の来館者が入られることはありませんが、職員が入る可能性がございます。

地震対策については、重要な防災の課題として、今後、今の時代に合わせた検討をしていかなければいけないと思っています。

○会長

それでは、阿知須図書館からお願いします。

○事務局（阿知須図書館長）

阿知須図書館の建物は、平成13年のきらら博のパビリオンであり、平成15年に移築しておりますが、ただ、移築できるような建物ということは、とてもがっちりした強固な建物ではないとも言えると思います。

もちろんその耐震基準は満たしております。書棚の転倒防止はしっかりしてあり、これはもう完璧です。

ただ1階の真ん中あたりの閲覧スペースの上を見るとガラスです。もちろん網が入っていますから、大丈夫とは思っております。震度7程度の想定はしてあると思いますが、そういう意味では、どこか不安があるのと言われれば、そこにあると思っております。

また、消防計画で義務づけがしてある避難訓練も、年に1回、職員皆で実施しております。

○会長

それでは、秋穂図書館からお願いします。

○事務局（秋穂図書館長）

秋穂図書館も、できて7年目ですので、耐震基準は十分適合しております。書架も御存じのとおり低いので、転倒の心配はまずないと思っております。

避難訓練も年に1回程実施しております。御存じのように避難訓練のときは玄関の方へ逃げるのですが、秋穂図書館は、側に芝生広場がありますので、窓をあけたら好きなように十分に逃げられますので、その辺も大丈夫と思います。

ただ、地震だけではなく、津波の対策について、話し合いをこれからしていかなければならないと思っています。地域交流センターは、複合施設ですので、逃げ場所をどこにするかという話をしていかなければならないと思っております。

○会長

確かに秋穂図書館は海が近いし、周りにはあまり高い山がないので。津波はまず来ないと思いますけど、でも、わかりませんからね。

それでは、ほかの方で他に御意見等があれば、お願いいたします。

○委員

市史編纂事業の終了とともに、収集された関連資料の保存と活用が気になります。図書館の郷土資料部門が関われるのでしたら、その仕組みをご検討いただければありがたいです。

○会長

この件は、中央図書館長にお任せしようと思います。そういうことでよろしいでしょうか。

○委員

はい。それでいいです。

○事務局（中央図書館長）

はい、研究してまいります。

○会長

はい、次の質問をどうぞ。

○委員

学校図書館との連携事業について、各館でどのように取り組まれているのか、その具体的な内容を教えてください。

市立図書館年報などで公表していただけるとありがたいです。

○会長

県に読書推進委員会というものもありますが、そこでもやはり、学校と公立図書館との連携ということがあります。それでは、具体的にはどんなことか、何かあればお願いします。

○事務局

今、お手元にある山口市立図書館年報の20ページ開いていただきますと、これは、言葉にはなっていないのですが、図書館では、学校図書館支援サービス事業にも積極的に取り組んでおります。

この年報では、ブックトークの実施実績について掲載しておりますが、このブックトークについては、学校からの依頼により、図書館の司書が授業の中で、本に対するテーマを決めて、数冊の本を順序だてて紹介するという活動を行っております。年報にもあるように、相当数の学校への派遣も実施いたしております。

定期的開催される学校図書館指導員への研修会に、必ず正職員の司書が出席し、図書館運営のノウハウをお話したりしております。

また、毎月、「本はともだち」という図書館の新刊図書案内を全小学校に配ったり、学校から依頼される、調べ学習や読み聞かせの資料相談等も行っておりまして、そのために、臨時職員2人を配置しております。

お手元の資料での第2次図書館サービス計画の体系図においても、基本目標の2番目に、次代を担う子どもの育成を支援する図書館、といたしておりますので、これは山口市立図書館の目玉ということで、学校と連携に力を入れてきております。

○会長

今ちょうど、市報にも出ていますし、ケーブルテレビでもブックトークの様子を何回も放送しておりますね。今後も学校と連携という形でして欲しいと思います。

○事務局

市立図書館による学校図書館等への支援ということは、山口市子ども読書活動推進計画でも定めており、学校と図書館が両輪となって、子ども読書活動を推進していくために取組んでまいります。

○会長

ご意見があればどうぞ。

○委員

私の子どもの小中学校は、どちらも入っていないのですが、かなり要望があるはずなので、もう少しここを説明していただけますか。

○事務局

それは、学校図書館運営の実態によるのではないかと思います。学校教育課の学校図書館指導員は、大体2校か3校を1の方が受けもっておられて、その指導員の方が、ブックトークをどんどんされるような方でしたら、わざわざ図書館に依頼をされなくても指導員本人がされる場合もあるとも聞いております。

○会長

ほかに何かございますでしょうか。

○委員

予約についてですが、先程も10時まで開館準備が大変だということと関係があるかもしれませんが、この間、トネリコの役員会のときに、予約がちょっと無制限過ぎるのではないかという意見が出ておりました。もう少し冊数を制限するとか、期間を制限する等、予約しっぱなしでそのままになってしまって、なかなかうまく本が回っていないということがあるのではないか、何か職員さんたちが苦勞されているだろうなと思いつつ、そんな意見も出ておりました。

○会長

なかなか全国的にも、同等規模の自治体における図書館からみたら貸出し点数等が上位の図書館ですので、その分だけ職員の方は負担が多いと思います。

○事務局

市民の予約点数が最大で30点までということについてですが、中央図書館の開館当初は無制限に近かったのですが、30点に絞る時に、多くの市民から苦情をいただ

	<p>いたと聞いております。現在、運営してみて、一人30点までだったら頑張れるのではないかということで、やっております。</p> <p>○会長</p> <p>その辺も無理のない程度で御検討をしてみてください。</p> <p>ほかにはありますでしょうか。それでは、そろそろよろしいでしょうか。本日は、報告事項ということで、皆様方に自由に発表していただいたということですが、次会は、いつごろの開催となりますでしょうか。</p> <p>○事務局</p> <p>定例でいきますと、3月中旬になると思います。</p> <p>○会長</p> <p>本日は、欠席の方が3名でしたので、次回はできるだけ多くの方にも出席できるような日程にしたいと考えております。それでは、事務局にお返しします。</p> <p>○事務局（中央図書館長）</p> <p>それでは、本日も、皆様方からいろいろな貴重な御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>本日の皆様の貴重なご意見を、今後の図書館運営や、次期図書館サービス計画の策定に、しっかり反映させていこうと思っております。</p> <p>また、今後も市内6図書館が連携して市民の図書館となるべく努力してまいりますので、今後も皆さんの力添えをいただきますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、ありがとうございました。</p>
	<p>山口市立中央図書館 TEL 083-901-1040</p>